

1. 公開授業の実践について

国語科の新しい必修科目「現代の国語」の「書くこと」の領域における単元案を計画した。新学習指導要領の文言をそのまま「単元の目標」に据えて計画することで、その単元でめざすべきことが明確になった。そのため、公開授業後の研究協議で「単元の目標の達成が不十分」という指摘を受けたことについて、授業者としても明確に反省点を自覚できたと感じる。

今回の授業計画においては、「単元」を強く意識することができた。1コマの授業ごとの目標はもちろんのこと、数時間を積み上げた単元の目標を授業者が明確に意識し、生徒にも分かりやすく示すことが重要だと感じた。「主体的・対話的で深い学び」を行うには思考を積み重ねる時間が必要になり、時間を確保するためには、学習内容の精選と課題の焦点化が必要になるからである。

2. 思考を積み重ねることについて

公開授業後の研究協議において、「何が『深い』のか」という点について話題になった。今回の公開授業は全6時間で単元案を計画し、公開授業は第3時の計画の部分を行った（台風により第2時の計画はカットしたので、実際は第2時）が、授業計画上は、単元の後半に思考を深めさせたいという想定だった。しかし、実際には単元計画通りにいかず、当初予定していた後半の計画も変更することになった。いざ実践してみると、当初の授業計画よりも、1コマ1コマにおいて生徒に考えさせる時間がもっと必要だと感じたからである。そのため、単元計画の第2次で一旦授業計画の実践を区切り、第3次の計画は年度内に行うことにした。

「じっくり考えて書く」には時間がかかる。また、日常の生徒の考えにゆさぶりをかけるためには、「日常の考えを取りだす時間」と、「他者との対話によって自分の考えを再検討する時間」が必要になる。こうした思考のプロセスを単元で計画するためには、「書くこと」領域の十分な時間確保は必須であると痛感した。従来、「読むこと」領域の学習に付随して感想を書く、といった「書く」活動ではなく、「じっくり考えて書く」ことを想定した授業を、1年次から積み重ねて行くことが必要である。

3. 他教科との連携の必要性について

「書くことを通してじっくり考えることができた」という実感を生徒が得るためには、思考の積み重ねが必要になり、思考の過程で吟味する「情報」（知識）の積み重ねが必要になる。利用する素材は、論理的な文章でも文学的な文章でも実用的な文章でも良いが、少なくとも、従来の国語教科書の素材文にのみこだわることはできないと考える。特に「書くこと」領域においては、書くための材料を充実させるために、広く情報を集め、情報と情報を比較検討することが必要になるからだ。学校図書館やインターネット環境が情報検索に活用できれば理想的だが、現状、継続的に利用しやすい環境とは言い難い。

したがって、「書くこと」の素材を得るのに、他教科との連携が効果的だと考える。イメージしやすいのは小論文指導や課題研究の形式である。これらは、ある事象に対して、様々な角度から考えるということが求められ、そのために複数の情報を組み合わせる必要があるからである。

他教科と連携するためには、「生徒が将来実際に働いたり学んだりする場面」の具体的なイメージを他教科と共有した上で、国語科の立場からアプローチする範囲を考える必要がある。今回の単元案を考える過程で、商業科目や公民の教科書を読んだところ、「情報の活用」について国語科の学びとの接点も見られた。こうした接点を利用することが、「書くこと」領域における時間確保につながるのではないだろうか。また、他教科の中で得られる知識を「書くこと」の素材に活用しようとする、必然的に「他教科の学習の中で実際に生徒がどう言葉を活用して学んでいるのか」という実態を意識することになる。そこから、他教科の学習において「教科書が読めていない」とか「自分に引きつけて考えられない」とか言われている生徒の問題に対して、国語科が自覚と責任を持って向き合うことにもつながるだろう。

4. 年間計画の見直しについて

今回の授業実践を通して、今後の国語科の学習では、特に「書くこと」の領域において他教科との連携の必要性が高まるのではないかと感じた。学習指導要領の改定では、必修科目「現代の国語」で、「話すこと・聞くこと」に20～30単位時間程度、「読むこと」に10～20単位時間程度、「書くこと」に30～40単位時間程度という授業時数が示されている。本校の国語科では、「30～40単位時間程度」の「書くこと」領域の学習について、現在のところ明確な年間指導計画を共有できていない。したがって、今後、生徒のゴールイメージを国語科内で改めて共有するとともに、新科目編成に即して年間の指導計画を構築していく必要がある。その際には、ゴールイメージから逆算して学習内容の精選と課題の焦点化を行い、目標達成のための手段として他教科と連携することも検討していきたい。